

平成 27 年 3 月 20 日
容器包装の 3R を進める全国ネットワーク
千葉大学環境 ISO 学生委員会

～千葉大学マイボトルモデル事業による成果～

ペットボトル 458 本分の削減効果！

- 92%がペットボトル、缶飲料の購入量が「減った」と回答
- 85%以上が「学内に無料給水スポットがあれば使用したい」と回答

容器包装の 3R を進める全国ネットワーク、千葉大学環境 ISO 学生委員会は 2014 年 10 月 9 日（木）～12 月 8 日（月）の 2 ヶ月間、マイボトルを利用した使い捨て飲料容器削減のための「千葉大学マイボトルモデル事業」を行いました。その結果をご報告いたします。

■概要

販売イベントにおいてマイボトルを 1 個 100 円の特別価格で 800 個販売、専用シールの無料配布も行った（25 枚）。大学生協内に設置した専用自販機で紅茶などの飲料を 50 円の格安で販売し、専用シールが貼られたマイボトルを持参すれば大学周辺の飲食店 10 店舗でサービスを受けられる仕組みを整えました。参加者には計 3 回のアンケートを実施し、マイボトルの使用状況や環境への意識変化を調査しました。



専用シール付マイボトル

■資源ごみの削減に関して

生協ライフセンター内に設置をした「マイボトル専用自販機」は 1,274 杯の利用（2 ヶ月間）があり 500ml ペットボトル 458 本分の削減となった。また、大学生協の「飲料売上点数」を調査、2014 年度は 2013 年度と比較（10 月第 3 週～12 月第 1 週）して 2,121 点の減少となった。アンケートでは 92% がペットボトル、缶飲料の購入量が「減った」と回答し、ペットボトル、缶飲料の購入量を調査した項目では「全く購入しない」と回答した人の割合がアンケート実施ごとに増え、本事業の成果が表れているといえる。



マイボトル専用自販機

■マイボトルの利用促進には

アンケートによると 85%以上が「学内にマイボトル用の無料給水スポットがあれば使用したい」と回答している。また、マイボトルを買った理由として「安くマイボトルが手に入るから」と 66%が回答し、マイボトルを利用して「よかった」こととして 81%が「飲料代が節約できること」を挙げている。さらに、専用シール提示による近隣飲食店でのサービスも 89%が「再びサービスが始まれば利用したい」と答えており、マイボトルの利用促進には「無料給水スポットの設置」「安さへの考慮」「特典の増加」が重要といえる結果になった。

本件に関するお問い合わせ：千葉大学環境 ISO 事務局
TEL:043-290-3572 メール：kankyo-iso@office.chiba-u.jp

※本モデル事業は、独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金の助成を受けて実施いたしました。

※詳細は 2 ページ目以降をご参照ください。 <http://env.chiba-univ.net/nishichiba/> に報告書も掲載しています。



千葉大学マイボトルモデル事業 結果概要・アンケート分析結果

■実証期間：2014年10月9日（木）～12月8日（月）

2014年10月9日（木）10日（金）オープニングイベント、第1回アンケート：回収数 827

2014年11月11日（火）～16日（日）第2回アンケート（webアンケート）：回収数 319

2014年12月18日（木）～24日（水）第3回アンケート（webアンケート）：回収数 224

■対象者

827名（マイボトル販売者 800名、専用シール配布者 27名）

■オープニングイベント（販売イベント）

マイボトル（3色）販売個数

：10月9日 600個、10月10日 200個 計 800個



オープニングイベント集合写真

■マイボトル専用自販機の設置

マイボトルモデル事業間（10月9日～12月8日）限定で生協ライフセンター内にマイボトル専用自販機を設置、ココア、紅茶、コンソメスープの3種類を50円（180ml）にて販売した。販売数は1,274杯となり、500ml ペットボトル 458本分の削減となった。また、「キャップアート」によって削減量の「見える化」を行った。



キャップアート

■専用シールによるサービス

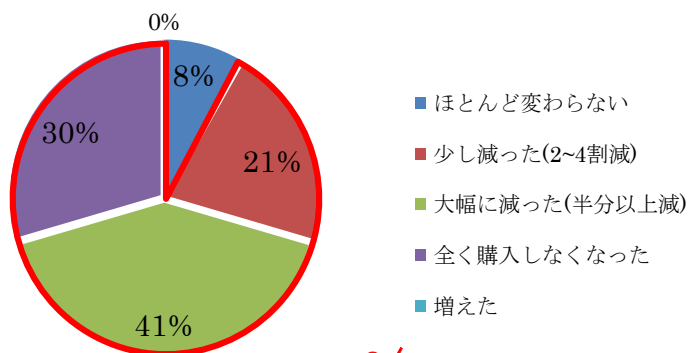
マイボトルを日頃から「もってもらう」ことを目的として専用シールの提示によって、千葉大学の近隣店舗で様々なサービスを受けられる仕組みを整えた。10店舗のお店から協力を得た。事後調査では、「10月上旬は多かったが11月下旬になるにつれ少なくなった。」など、モデル事業開始直後はサービス利用が多かったものの、徐々に減っていったという意見が多かった。一方で、専用シール提示による近隣飲食店でのサービスも、89%が「再びサービスが始まれば利用したい」と回答していた（第3回アンケート）。



専用シール

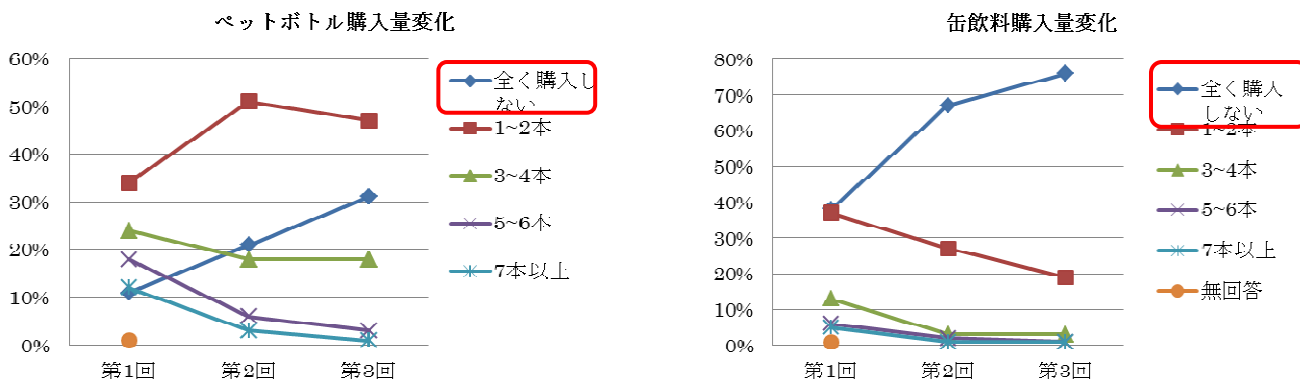
■92%がペットボトル・缶飲料の購入量が「減った」と回答！

マイボトルを持つようになってペットボトル・缶飲料の購入量に変化はありましたか（n=275）



左図のように、第2回アンケートにおいて、ペットボトル・缶飲料を30%が「全く購入しなくなった」と回答し、「少し減った」「大幅に減った」と合わせて92%が購入量が「減った」と回答した。自由記述からも「ペットボトルや缶の飲料水の購入回数が減りました。節約にもなるし、環境にも良いので、とても良い取り組みであると思いました。」との声を得られた。

■ ペットボトル・缶飲料を「全く購入しない」人が増加！



上図は、第1回から第3回まで継続してペットボトル・缶飲料の購入量を調査した結果である。「全く購入しない」と回答している割合が増加しており、本事業の成果といえる。

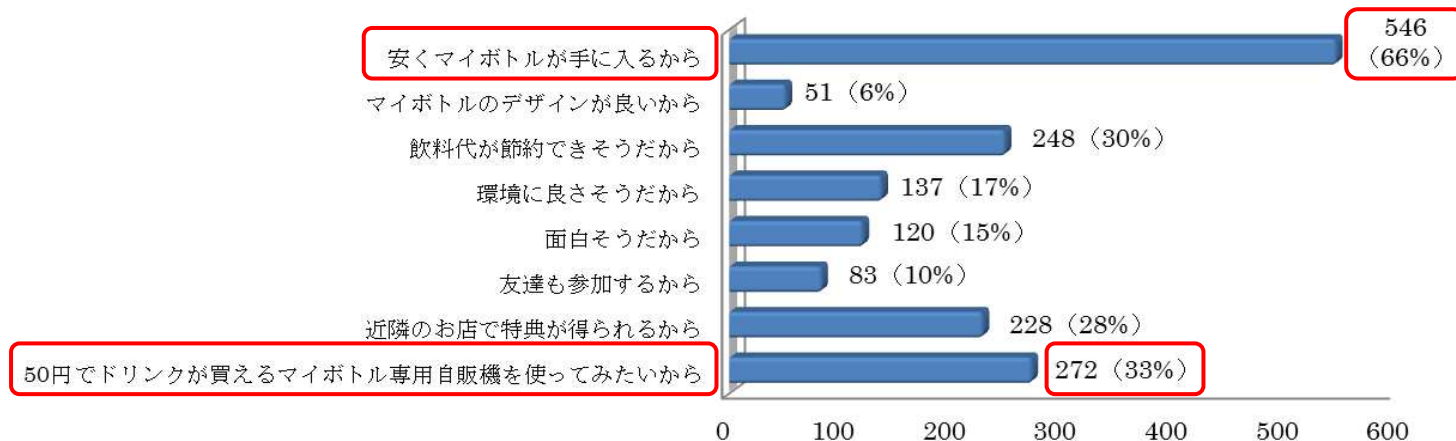
■ 85%以上が「学内に無料給水スポットがあれば使用したい」と回答！

選択肢	第2回 (n=319)	第3回 (n=224)
はい	85%	89%
いいえ	15%	11%

「学内にマイボトル用の無料給水スポットがあれば使用したいか」調査した質問では、85%以上が「はい」と回答し、無料給水スポットの設置が利用促進に大きく寄与するといえる。

■ 66%が「安く手に入るから」マイボトルを購入！

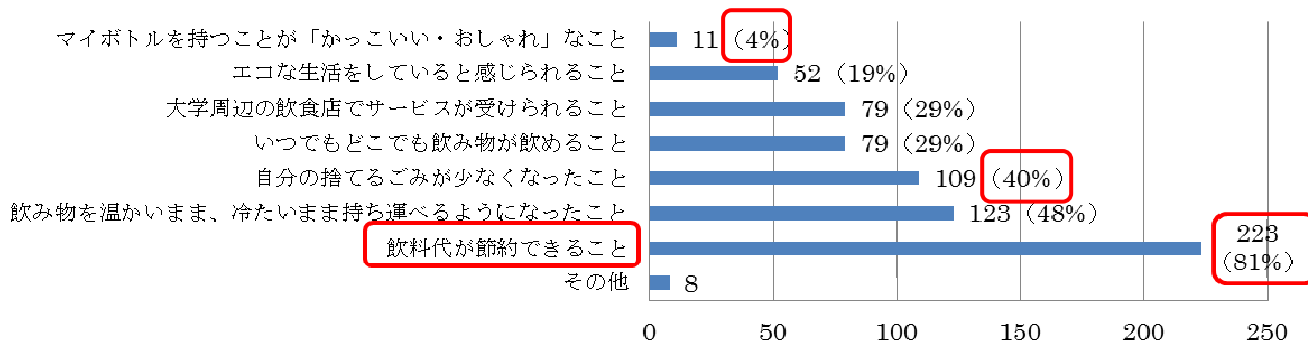
今回マイボトルを買った理由は何ですか（複数回答） (n=825)



100円という「安さ」から購入した人が66%に上り、「飲料代の節約」を理由に挙げた人も30%いた。これより、「価格の安さ」「節約」という要因が大きいことが明らかになった。50円でドリンクが買えるマイボトル専用自販機を使ってみたいと答えている人も33%おり、マイボトル専用自販機への関心の高さも伺えた。

■ 81%が「飲料代が節約できること」を良いと評価！

マイボトルを利用して「よかった」と感じた点は何ですか
(複数回答) (n=275)



81%がマイボトルを利用して「よかった」こととして「飲料代を節約できること」を挙げ、「ペットボトル飲料などを買わない分、飲食費の節減になる」などの声を得られた。また40%が「自分の捨てるごみが少なくなったこと」を挙げ、「不要なごみが出ないのでエコに貢献していると思います」などの声が聞かれた。さらに、4%ではあるが「マイボトルを持つことが「かっこいい・おしゃれ」なこと」をあげ、「マイボトルの使用は今回が初めてなのですが、最近なんだか自分を含めマイボトルを使っている人の事をかっこよく感じています」といった感想もあり、「マイボトルを持つかっよさ」を広めていくことも重要であると考えられる。

■ 総評

本モデル事業に対して好意的な意見も多く、マイボトル利用者増加、ペットボトル・缶飲料の削減に寄与したことから大きな成果を得られたといえる。しかし、「マイボトル専用自販機の設置場所を増やしてもらえれば、利用頻度が増えると思う」といった意見を頂くなど、専用自販機に関して課題の残る結果となった。さらなるマイボトルの促進には「無料給水スポットの設置」「安さへの考慮」「特典の増加」「かっこよさのPR」が重要であり、「専用自販機」の設置に関しては、設置効果を十分検討する必要があるといえる。

■ 担当者の声 千葉大学環境ISO学生委員会 11代目委員長 法経学部3年 植草太郎(22)

本モデル事業を通し、マイボトルの利用に関して一定の成果を得られたと感じています。これからは、調査結果を全国に広めていくとともに、さらなるマイボトル利用促進に努めていきたいと考えています。人々のライフサイクルに着目し、「飲み物を入れる」→「持ち運ぶ」→「飲む」→「洗う」というサイクルに沿った「利用しやすい環境」を構築することが求められていると考えています。

■ 千葉大学環境ISO学生委員会とは

千葉大学は2004年度にISO14001を取得。2013年には全国の大学で初めてISO50001も取得しました。当委員会は約190人(2014年12月)所属し大学の環境・エネルギーマネジメントシステムの構築と運用、および各種環境活動を主体的に行っています。

